## ・其の百十九 ビッグな甕の棺

かりました。 かんぼ)が、1400基以上も見つ きな土器を棺とする甕棺墓(かめ 掘調査で、弥生時代の墓地から大 光が丘団地の開発にともなう発

特徴的で、二つの土器の口を組み 合わせて棺とします。 人を入れるための大きなサイズが 甕棺墓は、丸みを帯びた形と成

> さがあります。この甕棺墓は、全国 だいたいそうですが、甕棺は二人 があれば十分で、この時代の墓も うして北部九州の人たちは、甕棺 北部九州でしか見られません。ど を好んでいたのでしょうか。 では福岡県や佐賀県を中心とした 入れても余裕があるくらいの大き 通 !常、棺は人体が納まる大きさ

だったのでしょう。 は理解しにくいところがあります を使うことは、現代人の私たちに かかわらず、コストをかけて甕棺 ます。小さい棺でも事足りるにも では謎に包まれています。しかし、 が、弥生人にとっては大切なこと 変な労力が必要だったと考えられ 巨大な甕棺は作るのも運ぶのも大 のか、2000年以上経過した今 その理由が単なる流行であった

固文化財課



▲歴史博物館に展示している甕棺

してみませんか。

をぜひご覧になって、その大きさ

歴史博物館に展示している甕棺

を実感し、弥生人の気持ちを想像

Chikushino No.1234 2025年11月号

はいまなへつの

〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎一丁目1番1号 2092(923)1111 FAX092(555)7377 発行/筑紫野市 編集/秘書広報課 ホームページ/https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/

















